

記者発表日	平成30年3月1日
-------	-----------

■同時発表先：合同庁舎記者クラブ  
広島県政記者クラブ  
中国地方建設記者クラブ

## 自治体の防災担当者等を対象とした 応急組立橋(T-20)及び災害対策用機械の見学会を実施します

「応急組立橋 (T-20)」は、橋梁が地震や洪水等により被災した場合に、被災橋梁の代換えとして応急的に設置し、交通機能の復旧を行い、復旧資材や救援物資などの輸送路の確保を行うとともに、新設橋梁の設置までの間、地域交通の確保等を支援する目的で中国技術事務所（防災技術センター）に配備されています。

この度、中国管内の地方自治体防災担当者や整備局職員を対象に、応急組立橋の架設点検に併せ、あまり目にする事の無い、実際に架設した状況を公開し、その特徴や施工方法等を説明します。併せて、当センターに配備されている災害対策用機械の公開も行い、防災活動に関する知識・理解を深めて頂く見学会を下記のとおり実施いたしますのでご連絡いたします。

■見学会実施日時：平成30年3月8日（木）13：30～15：00

■実施場所：中国技術事務所 構内（別紙1）

■実施内容：①応急組立橋の架設状況の見学（別紙2）

架設した状況を公開し、架設方法や留意事項などを説明。

主鋼を繋げる「連結ピン」の施工を実演。

②災害対策用機械の見学（別紙3）

当センターに配備されている、対策本部車、排水ポンプ車、照明車、分解組立型バックホウなどの災害対策用機械を公開し、実績や用途などを説明。

- 備考：・見学会は公開で実施し、撮影は可能です。  
・取材を希望される場合は、事前に下記問合せ先までご連絡下さい。  
・悪天候等の場合には、日程を変更する場合があります。

### 問 合 せ 先



## 国土交通省 中国地方整備局 中国技術事務所

副所長（機械）

岸部 明和

施工調査・技術活用課長

桃崎 英輝【担当】

住 所：広島県広島市安芸区船越南2丁目8番1号

電 話：082-822-2340（代表）

URL：<http://www.cgr.mlit.go.jp/ctc/>

■見学会実施場所



位置図



アクセス方法

■バスの場合

広島駅 12 番バス乗り場から  
海田市方面行きに乗車  
(約 20 分乗車)  
入川バス停下車  
東へ徒歩 5 分

■JRの場合

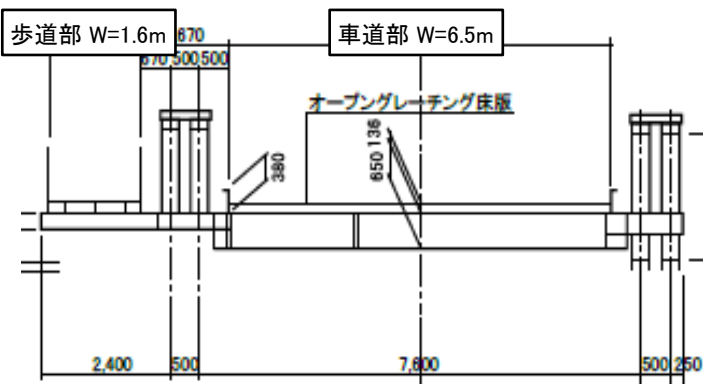
広島駅から 山陽本線(上り)  
または  
呉線(上り)に乗車  
(約 10 分乗車)  
JR海田市下車  
西へ徒歩 15 分

# 応急組立橋 (T-20) とは？

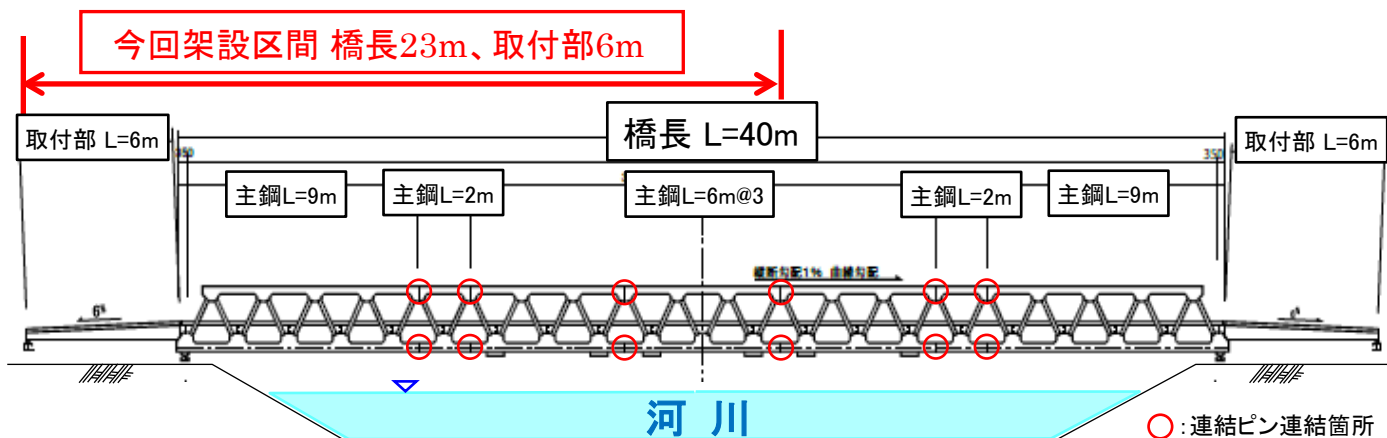
応急組立橋 (T-20) は、橋梁の破損や河川・道路の決壊時等の災害時に、復旧活動や地域生活を支える交通路を早急に確保する場合に使用します。

橋長は、2m、5m、6m、9mの「主構」の組合せにより、現地の状況に応じてL=10m~40mまで2mピッチで架設が可能です。

## < 断面図 >



## < 側面図 >



## < 架設実績 >

- ◇ H23年8月 [台風12号]
- ◇ 架設場所：和歌山県田辺市
- ◇ 使用期間：H24.2~H27.6  
(約3年4ヶ月設置)
- ◇ 架設橋長：40m



機械名	主要諸元	連続使用可能時間	写真	台数	使用目的	項
対策本部車	車体拡張型	約 18h		1	災害現場における会議、宿泊等に使用します。 車両拡張型には、無線装置等の通信設備や、冷暖房設備、会議用テーブル、TV等を搭載しています。 バス型には、衛星通信電話、FAX(衛星携帯電話対応)等の通信設備や簡易式トイレ、冷暖房設備、ベッド等を搭載しています。	3
	バス型	約 18h		1		
待機支援車	10人乗り	約 50h		1	災害現場における長期的な復旧活動を支援するために休憩・宿泊等に使用できるよう冷暖房設備、ベッド等を搭載しています。	4
衛星通信車	中型	約 50h		1	通信衛星を使用して、災害対策本部等に被災現場からの画像やFAX、電話連絡等の通信を行います。	5
簡易型画像伝送装置(Ku-SAT II)	可搬型	—		1	小型でライトバン等に積載して移動ができ、通信衛星を使用して、災害対策本部等に、被災現場からの画像やメール、FAX、電話連絡等の通信を行います。	
照明車	2kw×6灯 ブーム式	約 25h		3	夜間における現地の復旧作業や、危険箇所での監視を行うための照明設備として使用します。また、他の機械への電源供給にも使用できます。	6
排水ポンプ車	150m <sup>3</sup> /min級	約 8h		1	排水ポンプ及び発動発電機を装備し、浸水被害の現場で、排水ポンプにより排水作業を行います。	7
	30m <sup>3</sup> /min級	約 9h		4		8
分解組立型バックホウ	1.0m <sup>3</sup> 級 遠隔操縦式	約 8h		1	危険区域でバックホウを遠隔操作することが可能で、分解して空輸することができます。	9
小型式クローラークレーン	自立分解仕様 2.9t吊×2.5m級	—		2	分解して空輸することが可能で、自立組立(分解)することができます。	10
遠隔操縦装置	バックホウ用	—		1	危険区域でバックホウを遠隔操作することが可能です。	11

機械名	主要諸元	発動発電機使用時連続使用可能時間	写真	台数	使用目的	項
埋没物探査システム	—	—		1	法面崩壊等により土砂の中に埋没した金属体を確認することが可能です。	11
橋梁点検車	バケット式	約 17h		1	屈伸式ブームによるバケットを装備し、橋梁の上から橋梁裏面等の点検、補修等を行います。	12
応急組立橋	トラス式 40m	—		1	橋梁の破損、河川・道路の決壊等の被災箇所へ架設して、交通路を確保するためのトラス式橋梁です。	13
	トラス式 40m	—		1		
造水機	500リットル/h	約 11h		1	災害時に水道水の供給が止まった場合、海水・河川水・湖沼水等から現地で飲料水を作ります。	14
投下型水位計	測定可能水深40m	約1ヶ月～3ヶ月		1	土砂崩れで、川などがせき止められてきた水たまり(大規模河道閉塞)の深さを測ることが可能です。	14
土のう造成機	150袋/h	約 15h		1	堤防等の洗掘、越水等における水防工法に使用する土のうを、土の袋詰めから結束までを自動で行い短時間に大量の土のうを製造します。	15
土のう製作器	32袋用×1台 16袋用×1台 4袋用×5台 1袋用(大型)×3台 2袋用(大型)×1台	—		11	堤防等の洗掘、越水等における水防工法に使用する土のうを、袋の形状を整えた状態で多数の土のうを一度に製作することが可能です。	
車両移動用建設機械アタッチメント	フォークリフト(2.5t)用	—		2	放置車両等をフォークリフトにより移動させることができ、災害発生時の迅速な道路啓開を実施します。	16
全保有機械等			17機種 37台			